

# 妖怪人間に見るパトスとロゴス



織田哲司

子供の頃に見たアニメが実写版になって戻ってきました。「妖怪人間ベム」。ふだんはニュースと天気予報ぐらいしかテレビを見ないのですが、あのおどろおどろしい妖怪人間がどのような姿で復活したのかについて気になってチャンネルを合わせてみました。

とある博士が人工的に人間を作ろうとして失敗した末に生まれたのが3人（3体？）の妖怪人間という設定です。人間になり損ねた存在なのですが、体には正義の血が流れています。そして悪事を企む人間を見ると、正義の血がたぎり、自らの意思に反して妖怪へと変身してしまいます。気持ちが高ぶり、皮膚が破れる音がする、そのときの苦しそうなこと。その光景を見て passion という単語を思い出しました。

われわれは passion という単語を聞くと「感情、熱情、情熱」という意味をまず思い浮かべ、その後に「キリストの受難」という意味の存在に思い至ります。しかしこのことばの歴史は現在のわれわれが想起する意味の順序とは反対で、「キリストの受難」の方が一般的な「感情」という意味に先立っていました。

passion の元になったラテン語の passio（パッシオ）は、ギリシャ語で書かれた新約聖書に描かれるキリストの受難をラテン語で表現するために、もとのギリシャ語の pathos（パトス）をなぞる形で用いたものです。もともと「苦しめられた」という一般的な意味をもっていたのですが、これが「キリストの受難」という意味に特化して用いられたのです。ところが英語に入ってから、14世紀の後半以来、passion から非宗教的な「気持ちの高ぶり」を表す意味が現れ出て、それが興奮の度を増し、16世紀には「激情」へと高まります。そして啓蒙時代になると passion の対象はキリ

ストよりも恋人が優位になるようです。

英語の受動態を passive voice と言いますが、それは「苦しむ」という状態そのものが何らかの行為者によって「苦しめられる、痛めつけられる」という受動性を帯びているからです。「苦しむ」ことや「熱情」を抱くことはいつでも受け身の行為なのです。

感情は理性と対比されます。感情は受動的であるのに対し、理性は能動的で、また感情は理性よりも下位に位置づけられます。人間精神の理性、すなわちロゴスは自ら積極的に外界を掴み取りにかかります。さながらトカゲが長い舌を伸ばし、一瞬にして獲物を捕獲するときのように、人間は感覚器官を通して周囲の様子を捕捉します。これが認識の最初です。そういえば、perceive「知覚する」に含まれる -ceive は「掴み取る」という意味でした。

われわれは外界を能動的に掴み取り、その結果、苦しみなど様々な感情を受け取ります。これは本能のなせる技です。生き物はエントロピーの大きい状態を嫌うようで、無秩序な情報が入り乱れているエントロピーの大きい外界から、五官で感知できる範囲の情報を絞り込み、秩序立てて取り入れ、情報のエントロピーを下げながら温度や敵の有無など、周囲の状況を絶えず把握することによって生きているのです。

妖怪人間が痛い目に遭わせるのはいつでもロゴスがパトスに負けてしまった人間たちです。物語のクライマックスで妖怪人間はそのような情けない人間たちを理性的に説教します。早く人間になりたい妖怪人間から説教される人間とは、かくもか弱い存在なのでしょう。

（おだ てつじ・東京理科大学准教授）

## 高等学校・英語の学習指導要領は こう変わります

編集部

### 0. 中学校学習指導要領はどう変わったか

高等学校の話題に入る前に、今年度（平成24年度）から実施される中学校・外国語（英語）の学習指導要領がどのように変わったか、簡単にポイントをあげてみます。

#### ①時間数の増加

各学年で、年間時間数がそれぞれ105時間→140時間、3年間の総時間数では315時間→420時間に増えました。

#### ②指導する語数の増加

「900語程度まで」から「1200語程度」と約300語増加しました。また、上限設定から下限設定に変わり、「別表1」として指定されていた必修語（100語）もなくなりました。

#### ③言語活動や文法事項に関する制限の削除

小学校で「外国語活動」が導入されたことから、「聞くこと」と「話すこと」の指導目標から「慣れ親しみ」が削除され、また、「基本的なもの」や「理解の段階にとどめること」とされていた文法事項の制限も削除されました。しかし、言語材料そのものについては、大幅な増減はありません。

以上の点から、中学校の新学習指導要領では、時間数を増やすことによって、言語活動を通して言語材料の定着を図り、より実践的な運用能力を養うことを目指していることがわかります。

### 1. 高等学校学習指導要領改訂のねらい

高等学校学習指導要領改訂の全教科におけるね

らいとしては、次の3点があげられています。

- ①教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成
- ②知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視
- ③道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成

また、外国語科改訂の趣旨として特に強調されているのは、中高を通じて「4技能を総合的に育成する指導」の充実です。

### 2. 高等学校・外国語科の改訂のポイント

それでは、高等学校・外国語科の学習指導要領がどのように変わったか、具体的なポイントをあげながら確認していきます。

#### (1) 語数の大幅な増加

今回の改訂のもっとも大きなポイントのひとつが、設定語数の増加です。

	旧		新	
中学	900		1,200	
高校	英 I	中+400	コミュ英 I	中+400
	英 II	I + 500	コミュ英 II	I + 700
	リーディング	I + 900	コミュ英 III	II + 700
合計	1,800~2,200		3,000	

上の表の通り、「コミュニケーション英語Ⅲ」まで履修すると、学習する語は従来の最大2,200語から3,000語へと、中高合わせて約800語増加します。また、この語数は、アジア諸国の高等学校における設定語数に近づいたとされています。

## (2) 科目の再編

科目について新旧の比較をすると、下の表のよう  
にまとめられます。

旧	新
	コミュニケーション英語基礎 (2)
英語 I (3)	コミュニケーション英語 I (3)
英語 II (4)	コミュニケーション英語 II (4)
リーディング (4)	コミュニケーション英語 III (4)
オーラル・コミュニケーション I (2)	英語表現 I (2)
オーラル・コミュニケーション II (4)	英語表現 II (4)
ライティング (4)	英語会話 (2)

※ ( ) 内は標準単位数。コミュ英 I は 2 単位まで減可

「コミュニケーション英語基礎」は、中学校の  
学習内容の定着を図り、「コミュニケーション英  
語 I」への接続を目的とした科目です。

従来の「英語 I・II」「リーディング」は、4  
技能を総合的に育成する科目「コミュニケーション  
英語 I・II・III」へ再編されました。

「英語表現 I・II」は、従来の「オーラル・コ  
ミュニケーション I・II」と「ライティング」を  
整理統合した科目で、「話すこと」「書くこと」を  
中心とした表現力の育成を目標としています。

「英語会話」は、基本的な日常会話ができる能  
力を養う科目です。

なお、従来は「英語 I」と「OC I」の選択必  
履修でしたが、新学習指導要領での必修修科目は  
「コミュニケーション英語 I」のみです。

## (3) 2つのキーワード

今回の改訂では、「どのように指導するか」に  
ついて踏み込んだ記述がされていますが、その  
中で、特に強調されているのが下記の2点です。

①文法はコミュニケーションを支えるもの

②英語で授業を行うことを基本とする

①については、「言語活動と効果的に関連付け  
て指導」し、「用語や用法の区別などの指導が中  
心とならないよう配慮し、実際に活用できるよう  
指導すること」とされています。なお、文法事項

として指定されている項目は、すべて「コミュニ  
ケーション英語 I」で扱うこととされています。

②について、『学習指導要領解説』ではその趣  
旨を「英語による言語活動を行うことを授業の中  
心とすること」であるとし、文法説明など日本語  
を交える場面も考えられるとして、「授業のすべ  
てを必ず英語で行わなければならないということ  
を意味するものではない」と補足しています。

## 3. 各科目のポイント

各科目の目標・内容に関する解説や展開例につ  
いては、他の記事にゆずりますが、「コミュニケ  
ーション英語」と「英語表現」について、いくつ  
かポイントをあげてみます。

「コミュニケーション英語 I・II・III」の目  
標・内容については、従来の「英語 I・II」と大  
きな違いはありません。I II IIIの違いについても  
難易度が高まるだけで、内容や取り扱いに大きな  
変化はありませんが、IIIでは「社会生活において  
活用できるようにする」という目標があげられて  
おり、生涯学習も視野に入れた「生きる力」の  
育成>を目指しているところが目新しい点です。  
また「読むこと」について、速読・精読など「目  
的に応じた読み方をする」ことや「聞き手に伝わ  
るように音読する」ことなどが加わりました。

「英語表現 I・II」は目標として、「事実や意  
見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表  
現の方法を工夫しながら伝える能力を養う／伸ば  
す」とあり、改訂のねらいである<思考力・判断  
力・表現力等の育成>を意識したものとなってい  
ます。また、「話すこと／書くこと」だけでなく、  
「聞くこと／読むこと」と有機的な関連をもたせ  
ることも配慮すべきとされていて、4技能を統合  
した指導が期待されています。

### ◆参考文献

岡部幸枝・松本茂 編著 (2010)『高等学校新学習指導要領  
の展開 外国語科英語編』明治図書  
文部科学省ホームページ (<http://www.mext.go.jp>)

## *Genius English Communication I*

# 新しい時代の英語教育に向けた 新 *Genius I* の挑戦

村野井 仁



平成25年度から新しく始まる「コミュニケーション英語Ⅰ」。高校の先生方はどんな教科書が出てくるのか、興味津々なのではないだろうか。4技能を統合的に育て、理解の能力と表現の能力をバランスよく伸ばす。文法は言語活動と結びつけ、運用能力まで鍛える。そして英語の授業はなるべく英語で行う。これらの新学習指導要領の方針を新しい教科書がどう具現化してくるのか、ちょっぴり不安を感じながらも、ひょっとしたら何か新しいのが出てこないかと、期待されているのではないと思う。

*Genius Communication English I* (以下 *Genius I*) は、このような期待にどんと応えるため、以下の「挑戦」を試みている。

### 1. 人類共生にとって大切な題材内容

英語教科書の命は題材である。生きた題材、知的におもしろい題材を求めて編集チームは、2年数か月の間、悩みながらそしてもちろん楽しみながら教材候補をひたすら集めた。

題材探しにあたって私たちが大切にしたのは、いろいろな題材をなんの脈絡もなく教科書に「てんこ盛り」にするのではなく、これからの世界で生きていく若者たちにとって大切な意味を持つトピックに絞り込むことだった。

200本を超える教材候補を一つ一つ吟味し、私たちは最終的に以下の10のトピックを選定した。

#### *Genius I* で学び、考える10のトピック

A. 世界の姿 (A Village of One Hundred)

- B. 教育の大切さ・国際協力 (Three Cups of Tea)
- C. 日本の文化 (More Than Just a Piece of Cloth)
- D. 環境を守る (Borneo's Moment of Truth)
- E. 命 (Alex's Lemonade Stand)
- F. 脳の不思議さ (Magic and the Brain)
- G. スポーツへの情熱 (Mother of Women's Judo)
- H. 水と私たち (Water Crisis)
- I. フェアトレード (Coffee and Fair Trade)
- J. 戦争と信念 (Life in a Jar)

\*カッコ内は本課のタイトル

これらのトピックは、グローバル・イシュー (global issues) と一括りにすることもできるかもしれないが、何と呼ばれようとも、英語を身につけ世界のいろいろな人々と分かりあって共に生きていこうとするならば、どれも知っておきたい、そして、人が人らしく生きていく上で一度は考えておきたいトピックである。地球村に住む人類の多様性と人類が直面する課題、学ぶことの大切さとそれを支える国際協力活動、風呂敷に包まれる思いやりの文化、貧困から来る環境破壊とそれを食い止めようとする人間の英知、病気と闘う少女の姿とそれを支える人々とのつながり、マジックを通して見える人間の認知活動の不思議さ、女性柔道家のスポーツへの情熱と性差別との闘い、身近に迫る水不足の現状と科学技術、生産者と消費者を守る公平で公正な貿易、強い信念から多くの人の命を救った女性の物語。すべて「へー、そんなことがあるんだ！ そんなすごい人たちがいるんだ！」と驚くような発見と学びに満ちた



本課10点を取り揃えている。

## 2. 自律的な多読を促す Read On!

上記の10のトピックに関する本課に加え、新機軸として、本課と同じトピックまたは関連するトピックを扱った英文を10編載せている。従来、2, 3レッスンごとに1つ置かれていた読解中心の長文を、すべての本課に対して共通のトピックで付随させるという豪華な構成になっている。読解力を育てるには、どんどん読みたいという気持ちを育てて、たくさん読ませるのが最も効果的であり、そのような読解指導を1冊の教科書で可能にしたいという欲張りな気持ちを形に現したのが Read On! である。

Read On! は、なるべく生徒が独力で読めるように、手厚い傍注を付け、多読・速読の力、読みを愉しむ姿勢を育てることをねらっている。

原文の書き直しは最低限に留め、生の題材 (authentic material) に近いものに触れられるよう配慮しているのも Read On! の特徴である。

## 3. 理解・表現活動と調べ・考える活動の融合

内容がどんなに良くても、教科書本文を読んで理解して終わり、というような授業ではせっかくの教材を十分に活かすことはできない。

教科書の内容について聞くこと、読むことによって理解し、自分がその話題に対してどのような態度を取るのか自分の頭で考え、自分の考えや理解したことの概要を他者に伝え、共有し合えるように生徒にはなってほしい。そのような理解活動と表現活動がうまく融合したダイナミックな授業を先生方には展開してほしい。そんな願いをかなえるために *Genius I* には以下のような工夫が凝らされている。

### ① コンセプト・マップを使った要約活動

理解した内容を英語で他者に伝える story retelling や summarizing などのアウトプット活

動は英語運用能力を高める上で効果的であることが知られている。*Genius I* では各単元末に Communication Activities の1つとして、要約活動を入れている。本文のキーワードを用いて、本文の概要を図示したコンセプト・マップを用意しているので、生徒たちはそれを土台にして英語での要約ができるようになっている (図1 参照)。

生徒たちは、このようなコンセプト・マップの語句を手がかりにして、あらすじを英語で文章化していくわけであるが、読解活動そして音読活動をしっかり行った後であれば、それほど負担なく要約ができるのではないかと考えている。

### ② 他者との協同学習を促す Discussion

それぞれのトピックに関して生徒が自分の考えをまとめられるように Discussion Points を各章に設けている (図2 参照)。ペアワークやグループワークによって、お互いの考えを紹介し合い、意見の交換や議論が導かれるようになっている。

### ③ 「調べ学習」を促す Project

Communication Activities の最後の活動は Project である。これは、各章のトピックについて

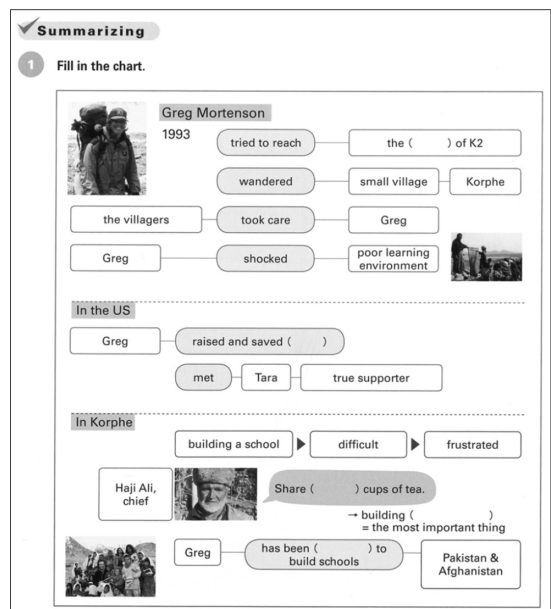


図1 コンセプト・マップの例  
(Lesson 2: Three Cups of Tea)

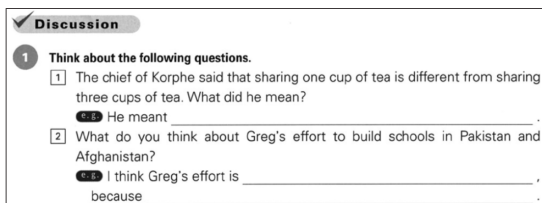


図2 Discussion Points (Lesson 2)

てさらに深く、あるいは別の角度から自分で情報を集め、それを英語でまとめて伝えようというものである。いわゆる「調べ学習」(research)を行い、調べたことを紹介し合う活動になる。各自が情報を持ち寄り、それをグループで統合してレポートやプレゼンテーションとしてまとめ上げる協同学習をねらった活動である。

例えば、Lesson 10 では単元の背景となっているホロコーストの歴史について調べるプロジェクトが用意されている。

#### 4. 文法運用力を高める Grammar Points と Give It a Try

各レッスンには高校で習得すべき文法事項が配置されている。本課の内容に合わせて自然な形で目標文法事項を学べるようになっている。

文法について最も特徴的なのは、単元の最後に単に文法の構造や例文の記述を載せるだけではなく、言語形式を意味や機能を考えながら操作する力を伸ばす Practice があり、さらに、より実際の言語使用場面に近い形で文法運用を求める Give It a Try が用意されていることである。これは、文脈化されたドリル (contextualized drill) であり、段階的に文法を使いこなす能力を高めるために有効である。文法を言語活動と結び付けて指導する 1 つの方法を提案している。

#### 5. 内容・言語統合型学習を可能にする教科書

このように見ていくと、Genius I が目指しているのは、大切な内容について学び、ことばを理解し、表現する力を育てることに加え、考えた

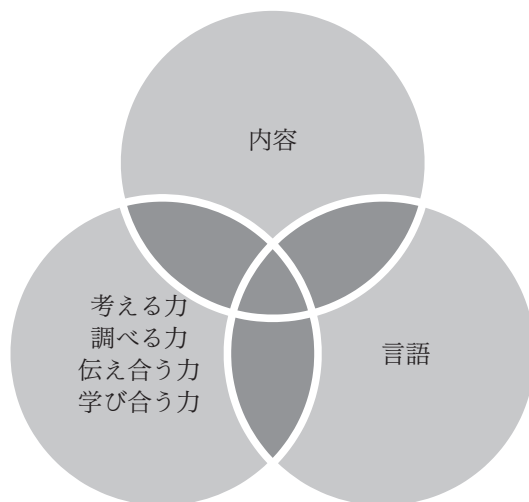


図3 内容言語統合学習の枠組み

り、調べたりする力も育てることであることが分かりいただけると思う。それを学習者一人ではなく、他者と共に力を合わせて行う機会を作り出すことをねらっている。

このような外国語学習への総合的・協同的なアプローチは、近年特にヨーロッパで実践が深められている内容言語統合学習 (Content and Language Integrated Learning/ CLIL) と軸を同じにするものである。

図3が示すように、内容と言語の学習に加え、生きる力としての考える力、調べる力、伝え合う力、学び合う力を総合的に育むことを外国語の授業で目指すのが、CLIL である。ここでは、授業は人間を全人格的に育てる活動になる。そんな外国語教育を日本の英語教室で少しずつでもいいからやってみたいと思う先生に、Genius I を使っていただきたいと心から願っている。

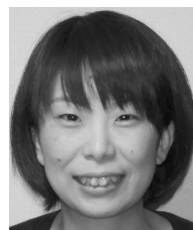
このような工夫を思い切って盛り込んだ Genius I, 先生方の熱いご期待に応えられるだろうか。こんなふうに教えられたらきっと授業は楽しく、意義深いものになる。そんなことを思いながら作り出した私たち編集チームの「挑戦」である。

(むらのい ひとし・東北学院大学教授)

## Genius English Communication I

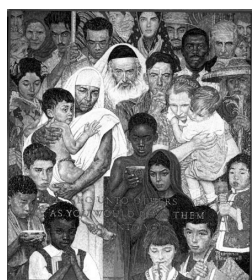
# 教科書をきっかけに「考えさせる」授業のヒント

関 万里子



学習指導要領の改訂に伴い、Genius の教科書も大きく様変わりし、以前と比べてよりコミュニケーション活動が増えた。コミュニケーション活動は、現行のどの英語 I の教科書にも含まれているが、正直なことを言えばそのような活動は授業であまり重視されていない。そこで今回は Lesson 1 の“A Village of One Hundred”に掲載されている活動を通して、いくつか教科書の活用法をご紹介しますと思う。

## 1. Warm-up について



タイトルページにある挿絵はその課についての何かしらの情報を与えてくれる。その絵から本文の内容を推測することもできる。Lesson 1 には Norman Rockwell の

“The Golden Rules”が掲載されている。

### ① The Golden Rules について

まずは絵を見せて、以下の3つの質問をする。

Q1. What can you see in this picture?

Q2. What are the words written in the picture?

Q3. Guess the meaning of its message.

この絵には老若男女、多様な人種、宗教を持った人々が描かれている。Q1 では生徒たちからできるだけたくさんの意見を出させたい。出てこなければ、絵の人物を一人ずつ取り上げて考えさせる。次の Q2 であるが、絵をよく見ると金色の文字で “Do unto Others as You Would Have Them Do unto You” と書いてある。これがこの

絵のメッセージであり、その意味を考えさせるのが Q3 であるが、中学校を卒業したばかりの高校1年生がこの意味を理解するのは少し難しいかもしれない。まずは生徒に推測をさせ、それでも出てこない場合は選択肢を用意して選ばせるのも良い。このような導入を行った後でリスニング活動につなげる。

### ② リスニング活動について

Jun と Emily がある絵 (The Golden Rules) について話している対話であり、そのことを生徒に伝えると先ほどの活動とのつながりが出てくる。教科書に選択肢が載っているので、リスニングの前に目を通しておくと、何が質問されているのかある程度推測できるので、リスニング活動がスムーズにできる。さらに発展的な活動として、もう一度 CD を聞かせて Extra Questions を聞くのもよいだろう。

### ③ 本文への導入

結局のところ、この絵が最初のページに掲載されているのはなぜだろうか。最初の活動で世界には老若男女様々な人種がいて、それぞれの宗教や生活習慣も違うということが分かった。それがもし「ひとつの村に100人に凝縮されたらどうなるのか」を生徒に伝え、本文へと入っていく。

## 2. 本文について

この後の Communication Activities とのつながりも考えて、パート毎にキーワードを見つけないが読みすすめる。特に各パートで多くの数字が出てくるので、それが意味するところを正確に理解させる必要がある。さらに各パートを読み終わ

ったら小見出し（英語でも日本語でも）をつけさせる。Part 1 では「100人の村」が「自然」「言語」「文化や価値観」において多様であることを読み取り、Part 2 で村の「人数構成」を知った後に「教育」「健康」、Part 3 で「環境」「水」、Part 4 で「貧富の差」「紛争」についての問題があることを把握した上で、最後に「この村をよくするには何ができるか」を考えさせる流れである。こうすると後の Summary も取り組みやすい。

### 3. Discussion について

Warm-up と本文で学んだことを通して自分たちは何をすべきなのかを考えるのが Discussion 活動である。教科書に掲載されている2つの質問に答えるだけではもったいないので、次のようにもう少しこの活動を膨らませていきたい。

①教科書をもう一度読ませ、一番驚いたところにアンダーラインを引かせる。

②その理由を考えさせる。

③ペアで発表させる。

（ここまでが教科書を基にした活動）

④生徒を「教育」「健康」「環境」「水」「貧富の差」「戦争」のグループに分ける。

⑤テーマ別に解決策を議論させる。

⑥クラス全体に発表する。

普段、我々は語彙や文法の習得や理解のためにたくさんの時間を費やすが、細部に目が行き過ぎてしまって結局内容の理解が不十分になってしまいうことが多い。そこで、視点を変えて「一番驚いたことを見つける」という目的でもう一度教科書を読ませたい。そのことで、語彙や文法を気にせずに内容を重視した読みができる。その後、驚いた理由を各自で考え、ペアで発表させる。おそらく生徒が驚いた箇所は「教育」「健康」「環境」「水」「貧富の差」「戦争」のどれかに分類されるはずである。テーマごとにグループに分かれて解決策をディスカッションさせる。白紙を1枚用意し、生徒は思いつくだけ解決法を書き、その後、グループのメンバーで協力し合って解決法を英語

に直させ、最終的にはクラス全体に発表させる。

### 4. Project について

Discussion を通して教科書の内容を深めた上で、さらに世界と日本を比較して発展的に学習していくのが Project である。ここでは2つ目の識字率を取り上げて活動例を紹介したい。識字率は英語よりもむしろ地理の学習内容の方が濃い。そこで、地理担当の先生にご協力を仰ぐのも一つかもしれない。用意するものは、World Illiteracy Map（できればカラーで）である。

①世界の非識字率について

教科書にある Literacy についての記述を見つけさせる。すると、世界の約15%が文字を読めないことが分かる。

②日本の非識字率について

World Illiteracy Map を見て、日本の非識字率を確認すると、10%以下だということが分かる。同じ色がついている地域を挙げさせると、非識字率が10%以下の地域はヨーロッパと東アジアと北アメリカだということが分かる。

③他国の非識字率について

非識字率が50%以上の国、30%～49%の国、10%～29%の国をそれぞれ具体的に挙げさせる。非識字率が高い国はアフリカや南アジア、南アメリカにあるということが分かる。

④原因を考える。

国（地域）によって、識字率に違いがあるのはなぜだろうか。それを考えて発表させる。

（参考資料：[Map of the World]）

<http://www.mapsofworld.com/thematic-maps/world-illiteracy-map.htm>

\*

本教科書はどの課においても発展的で内容を重視した活動が組み込まれている。確かに準備には多少時間がかかるかもしれないが、その分、語彙や文法の習得にとどまらない「英語を通した学習」が期待できるだろう。

（せき まりこ・新潟県立国際情報高等学校教諭）



特集●新学習指導要領と新しい教科書の「ここが知りたい」

## Genius English Communication I

### 付属資料のご案内

#### ■生徒用■

#### ◆学習ノート一新登場！「授業プリント」感覚のワークブック

見開き2ページで各課の1パートに対応しています。冒頭にスラッシュ入りの本文と新出単語・重要表現のリストを掲載していますので、予習ノートとしてもご活用いただけます。

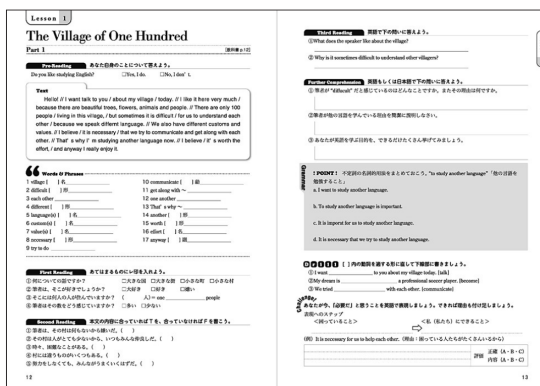
本書のメインは、本文を違う観点から何度も読み返し、理解を深めていく「ラウンド・リーディング」の課題です。First Reading→Second Reading→Third Reading→Further Comprehensionと読み進める、バラエティに富んだ設問を用意していますので、生徒の読解力・思考力を無理なく高めることができます。一方、文法解説と練習問題はポイントを絞って、コンパクトにまとめました。

各パートの最後には、簡単にできるコミュニケーション活動をご用意しました。授業の仕上げに短時間でできて、授業を活性化するアイデアが盛り込まれています。

予習・復習用としても、授業ノートとしても、家庭学習用としても、柔軟にお使いいただける構成です。

#### ◆文法・構文ドリル

文法・構文・重要表現の練習を中心としたワークブックです。オーソドックスなドリル形式で、空所補充・並べかえ・英文和訳・和文英訳など、バラエティに富んだ問題形式を用意しました。1レッスン見開き2ページの構成で、課題や小テストなどにもご利用になれます。



学習ノート

#### ■教師用■

#### ◆教授用指導資料（2分冊+CD-ROM）

分冊① *Teacher's Manual*：本文の訳・解説などの他、授業展開例・発展活動例なども掲載。教科書のトピック・背景知識を解説した「情報資料」コラムも随所にご用意しています。

分冊② *Teacher's Book*：練習問題の解答やリスニング・スクリプトなどに加え、「英語で授業」を意識した、オーラル・イントロダクション例や発問例・授業展開例なども盛り込みました。

CD-ROM：ご好評いただいている「英単語・熟語自動問題作成ソフト」の他、評価問題データ、教科書・副教材のデジタルデータ、リンク集などを収録する予定です。

\*

これらの他、生徒用・教師用の音声CDもご用意しています。詳しい内容につきましては、「付属資料ダイジェスト版」に抜粋見本を掲載していますので、そちらもご参照ください。

（編集部）

## *Compass English Communication I*

# 生徒にも先生にも user-friendly な教科書

岡田 圭子



新学習指導要領では、高等学校の英語科目が再編成されました。4技能の総合的な指導をめざす「コミュニケーション英語」科目群と、発進力の充実した指導を目指す「英語表現+英語会話」科目群の2つに大別されます。「コミュニケーション英語I」では、「英語I」以上に生徒を動かし、多くの活動をさせることにより、生徒中心の授業を展開することが期待されています。

私たち執筆陣はこのことを念頭に置いて、話し合いを重ね、アイディアを出し合い、執筆を続けてきました。こうして出来上がったのが、新教科書 *Compass* です。英語学習という大海原を進む生徒たちの手元でしっかりした羅針盤の働きができるよう、*Compass* と名付けました。

## 1. *Compass* の編集方針

まず、*Compass* の編集上のポイントをご紹介します。

### (1) 使いやすい見開きレイアウト

見開き2ページ（右頁上図参照）がひとまとまりとなっています。左ページに本文、右ページに解説とタスクを置きました。先生にも生徒にも見やすくわかりやすい、進度を把握しやすい構成となっています。

### (2) 基礎固めを着実にする構成

レッスン順に進んでいくだけで、基礎を押さえ、さらに新指導要領の要点を生かした授業を展開していただくことが可能です。

### (3) 多彩なトピックの10課と補助リーディング

2学期制・3学期制どちらでもお使いいただけ

る、無理のない10課構成です。第1課では、アンジェラ・アキ、野口健、毛利衛の各氏に高校1年生へのメッセージを寄せていただきました。これをはじめとして自然、環境、歴史、科学、日本文化など多彩なトピックが展開。さらに、生徒の興味を引く魅力的な写真・挿画が満載です。

また、Supplementary Readingとして、平和をモチーフとした心温まる読み物と、星新一氏のユーモア小説を英訳した読み物を配置しました。本文より平易ではありますが、読み応えのあるものとして、生徒の心を捉えることでしょう。それぞれに1ページのComprehensionを添え、授業内で扱わない場合でも、生徒が自律学習できるように工夫しました。

## 2. *Compass* の構成

次に、新指導要領を踏まえた *Compass* の特徴をご紹介します。

### (1) 4技能の総合的育成

「聞いたり読んだりして知識をつけ、それについて自分なりの考えを持ち、話したり書いたりすることで自分を発信する。」このことが、自然にできるように各課の構成を工夫しました。

各レッスンの扉ページをご覧ください。生徒の想像をかきたてるような、美しい写真や挿画とともに、日本語の紹介文がついています。ここでぜひ生徒には、課のトピックを自分の話題として考えてもらいたいと思います。

ページを開くと、1課は4つのパートに分かれ、各パートは見開きの2ページで完結していま

す。左ページに本文、右ページには解説とタスクがあります。左ページは、ネイティブスピーカーの執筆者が練りに練ったわかりやすく親しみやすい本文が、美しいカラー写真やイラストとともにすっきりと収められています。学習指導要領などの音読重視の傾向を踏まえて、Soundでは各ページから1個ずつ、読み方を注意すべき語や表現を取り出し、一言で解説しました。

右ページは、以下の4つに分かれています。

#### ○Answer it!

ここは、本文の内容把握です。英問英答ですが、ペアやグループで話し合ったりして、生徒が声を出すきっかけにすることもできます。

#### ○Focus on it!

各パートに1つずつ文法のフォーカスを置いています。Book 1では後半まで中学校の項目の復習にとどめました。

#### ○Check it!

Focus on it! で取り上げた表現を英文完成、内容把握、並べ替えなどの方法で確認しています。

#### ○Use it!

本文に出てくる重要な表現を使って簡単な英文で話してみようというセクションです。生徒がスムーズに発言できるよう、Hint Box でヒントが与えられており、平易なタスクとなっています。

さて、4つのパートを学習し終わると、Review, Practice, そしてEnjoy Communication という3つの課題が用意されています。Reviewでは、その課の内容を確認できるよう、サマリーや手紙文などの形式を用いたタスクが用意されています。また、本文の内容を自分に引き付けて考えることができるよう配慮されています。

24

Part 4 人間の走る速さ、泳ぐ速さを動物と比べてみましょう。

Let's compare humans to animals. The fastest humans run around 38 km/h (kilometers per hour), but the cheetah can run at 113 km/h. The fastest humans swim around 9 km/h. However, the fastest fish in the ocean—the sailfish—swims at 109 km/h.

Some people can hold their breath for four minutes and dive 100 meters under water. Yet the Cuvier's beaked whale can dive to 1,900 meters and hold its breath for more than an hour. Humans are often not nature's number one.

compare (kəmˈpəreɪ)  
per (pə)  
cheetah (ˈtʃiːtə)  
sailfish (ˈseɪlɪʃ)  
breath (breɪð)  
dive (daɪv)  
yet (jet)  
Cuvier's beaked whale (ˈkʊviəz beɪkt ˈwaɪl)

ヒトより速い動物の走る速さ (速さ比較)

① compare ~to ~と比べる ② sailfish サイロウサシ  
③ hold one's breath 息を止める ④ Cuvier's beaked whale アネゴクワジ  
⑤ kilometer キロメートル ⑥ meter 1メートルの長さなどの単位に注意

Lesson 2

Answer it!

a. How fast can the cheetah run?  
b. How fast does the fastest fish swim?  
c. How long can the Cuvier's beaked whale hold its breath?

Focus on it!

The cheetah can run at 113 km/h.

動詞 + 動詞の形  
「～することができる」

Check it!

次の文を( )の語を使って書き換え。意味の違いを考えましょう。

a. This dictionary is Mandy's. (may)  
b. Do you walk to school? (can)

Use it!

下欄部の表を使って、旅行する際の交通手段について話しましょう。

a. How can I get to Kyoto from here?  
b. You should go by train. It's the easiest way.

Hint Box

Sapporo Osaka  
plane bus

(Lesson 2)

Practiceではイラストをヒントとしながら英文を完成させ、重要な表現の定着を図ります。最後のEnjoy Communicationは、新指導要領の要である、「文法指導をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行う」ことの仕上げとなっており、Compassの大きな特徴と言えます。ここでは、本文の内容に基づき、その応用的な言語活動が提示されており、話すことや書くことを通じて「発信力」を育てることができます。生徒もその課で学んだことが自分について話したり書いたりすることにつながっていくことに、大きな喜びを感じることでしょう。

#### (2) 関心や意欲を高める内容

「4技能の総合的な育成を効果的に行うために、そうした活動にふさわしい題材を選ぶ。たとえば、社会や理科といった他教科でも学ぶ内容について英語で学ぶ、あるいは自国の文化や歴史について学ぶ、科学技術や自然について学ぶ、コミュニケーションへの関心を高める内容について学ぶ。」このことを念頭に置き、非常に多くの題材候補の中から、高校1年生にぜひ知ってもらいたい、興味深いものを精選しました。2、3のレッスンをご紹介します。

Lesson 3 の “Kimonos are Cool!” では、オーストラリアからの留学生との会話を通して、日本の伝統的衣装である着物とその流行についてわかりやすく学びます。デニム生地のできたジーンズ感覚で着られる着物や、アフリカのデザイナーがアフリカの伝統的な布地を用いて作った着物についての話題は、着物という日本独自の文化についての関心や理解を深め、自分の国のことについて話してみようという態度を養うでしょう。

また、Lesson 9 の “The Story of Chocolate” では、チョコレートという身近な食物を取り上げ、その歴史、製法、消費などについて学びます。この課の Enjoy Communication は自分の好きなものについて、なぜそれが好きなのかを書いてみよう、というものです。このように、*Compass* では、何か新しいことを読んだり聞いたりしたあとで、それを自分のことに引き付けて考えることができるような工夫が凝らされています。

最後の Lesson 10 は “The Coral Crisis” というタイトルで、日本人生徒がサンゴ礁の危機について調べ、それをクラスでプレゼンテーションする、という設定です。英語を通して得た知識を自分なりに捉えなおし、意見を持ち、これをやさしい英語で発表することができたら、コミュニケーション英語 I は成功だと言えます。

このように、*Compass* では、読んで楽しい、聞いておもしろいトピックについて、内容、文法、表現、音声などを体系的に学び、さらに Review や Practice で確認・応用、最後に Enjoy Communication で発信する、というきわめてシンプルで、わかりやすいサイクルを通じて生徒ひとりひとりが言語経験を蓄積できるよう、工夫が凝らされています。

さらに、こんなところにもご注目ください。

(1) 巻末には、Idiom List と Word List をつけました。コミュニケーションを進めるための語彙力を充実させることは新指導要領の重要点でもあります。語彙小テストの範囲設定など、さまざま

に活用してください。

(2) 教室英語に慣れるために、先生方と生徒の両方がこんなことが言えたら、という、Classroom English を裏表紙に載せました。このようなリストはありそうでないもの。便利に使っていただけたと思います。ALT が訪問する時間だけでなく、普段の授業でもご活用ください。

### 3. 生徒・先生に user-friendly な教科書

最後に、執筆陣からのメッセージです。中学校の3年間で英語が好きになって高校に入ってくる生徒もいれば、苦手意識を持ったままの生徒もいることでしょう。教室には英語について様々な気持ちを持った生徒たちがいます。私たちは、そういった現実をふまえて、苦手意識を持った生徒には少しずつ基礎の確認をしながら楽しく進んでもらえるように、英語が好きな生徒にはさらに新しい発見をしてもらえるように、課の構成やトピックを考えました。1 課に 1 回でも「へえ！」と思ってもらえることがあれば、少しずつ英語学習への前向きな姿勢が養われるのではないかと思います。

さらに、*Compass* は先生にとって使いやすい教科書となっていると自負しています。トピックの配置、タスクの内容など、現実の教室運営をしっかり想定した上で決めていきました。執筆陣は、6 名中 5 名が日本の高等学校の現職教員または教員経験者です。現場をよく理解した執筆者が、現場で最大の教育効果を上げていただけるよう、工夫を重ねました。また、力のあるネイティブスピーカー執筆者のおかげで、知的で刺激的内容を平易で読みやすい英語でお届けすることができました。生徒にとっても、先生にとっても user-friendly な教科書、それが *Compass* です。

\* \* \*

以上、*Compass* 編集意図やお勧めのポイントなどを説明しました。ぜひ、教室で *Compass* を活用してください。（おかだ けいこ・獨協大学教授）



## *Compass English Communication I*

# 明るいメッセージで 生徒を授業に引き込む

飯田 浩行



まずこの教科書全体を見て思うことは、明るいイメージの写真が多く、生徒にポジティブな勢いや夢を与えてくれる教科書だということです。どのレッスンも美しく、メッセージ性に富んだ写真が本文への扉になっていますので、この特長を生かして授業を始めたいと思います。たとえば Lesson 3 の“Kimonos Are Cool!”であれば、写真を指さしながら、つぎのように生徒に語りかけてコミュニケーションを始めます。

“Class, look at the picture on page 29. She looks very beautiful in her kimono. Its pattern is quite different from ours, but it is very beautiful. What do you think? Do you have your own kimono and how often do you wear it? Japanese traditional kimonos are becoming very popular in the world and more and more foreign people have become interested in them. Let's learn more about our kimonos.”

自分たちの世代では「古くさい」感じになった着物も世界の人々が作ると随分と斬新なものであり、衣装は世界共通の話題であることを生徒に意識させて、「世界モードスイッチ」をオンにしてから、その課の学習に入ります。

Lesson 10 のタイトルは“The Coral Crisis”なのですが、扉がとても美しい写真なので、どのよ

うな話を生徒としようか、生徒のどのようなスイッチをオンにしようかと考えるだけでワクワクします。写真やイラストをきっかけに、生徒にも意見や感想をどんどん言ってもらって授業に生徒を引き込んでしまいましょう。

実際の授業の進め方は、中学校からの流れを生かして Listening—Speaking—Reading—Writing という 4 技能をつなげる流れで指導したいと思います。Listening から入るのは英語に苦手意識を持っている生徒にも好評のようです。キーワードとなる名詞を板書してスキーマとして与えておいても良いかもしれません。英語が得意な生徒が多いクラスなら、語句の意味は英語で与えましょう。CD を聞かせて、内容を聞き取らせ、教科書の **Answer it!** の問題 +  $\alpha$  で確認します。ここで必ず「先生の 1 問」を付加しておきましょう。予習してきた生徒や英語が得意な生徒も本文内容を意識しながら再度聞き取りをしなければなりませんし、英語に苦手意識を持っている生徒も先生の「誘導」や「繰り返し」で「先生の 1 問」には答えられるという安心感が得られます。

内容理解度を確認したら shadowing の指導に入ります。各パートを全員ですべて shadowing したら、列毎にセンテンスを割り当て、音声 CD に合わせて順番に shadowing をさせます。つぎに生徒を個別に起立させて、Read & Look up で流暢な英語で発話できているかを確認します。

Speaking の指導では **Focus on it!** を有効に使いましょう。ここでは speaking 力をアップするために必要な英文の型をまずインプットします。



Lesson 3 扉

## Focus on it!

代名詞③ (other)

**Some** cacao farmers are very successful, but **others** face a lot of challenges.

=other cacao farmers

「～もいれば、…もいる」

## Check it!

日本語に合うように、適切な語を入れて英文を完成させましょう。

- 心地よい気持ちにさせてくれる色があれば、集中力を高めてくれる色もある。  
( ) colors give us comfortable feelings, and ( ) increase our concentration.
- 納豆が好きな人もいますが、そうでない人もいます。  
( ) people like *natto*, but ( ) don't.

(Lesson 9)

Lesson 9 の **Focus on it!** を例にします。

Some cacao farmers are very successful, but others face a lot of challenges. この文を板書し、クラス全体に間断なく大きな声ではっきりと音読させます。生徒の反応と発音を意識しながら、単語を下線に代えていきましょう。Some \_\_\_\_\_ farmers are very \_\_\_\_\_, but others face a lot of \_\_\_\_\_. などと単語をどんどん消して下線に置き換えます。最後は Some \_\_\_\_\_, but others \_\_\_\_\_ というスケルトンの状態にしますが、この指導方法なら英語が得意な生徒も英語に苦手意識を持っている生徒も同じ学習活動に取り組めます。

続いて、**Check it!** に入ります。ここではペアで作業をさせましょう。空所を埋める単語は Some, others であることは容易にわかります。ペアの一方には相手が Read & Look up で覚えた英文を確認させます。例文 2 つで交互にこれを繰り返すことで、生徒は listening と speaking の練習をすることになります。

最後に Hint Box を用いて **Use it!** をペア・ワークさせてターゲット文の型のインプットの仕上げをしましょう。各パートの本文に挙げられた **sound** も全て丁寧に確認すれば生徒の発音も格段に良くなるでしょう。

Reading の指導でもコミュニケーションを意

識して教えましょう。コミュニケーションのための英語指導でいちばん大切なことは情報を正確に読み取るということです。例えば、Lesson 4 などの物語文で Reading を教える時には、登場人物ごとに行動や心理をまとめると良いでしょう。登場人物名を板書して、彼らの行動と言葉を生徒との対話を通して確認しましょう。そして、発話からわかる彼らの心の動きを生徒と話し合ってみましょう。内容によっては時間の経過や論理展開を表す語句 (signpost) を中心にして時系列や論理構成で内容を整理するのもよいでしょう。

Writing の指導には課末の **Practice** と **Enjoy Communication** を上手に使いましょう。ここでも情報の伝達というコミュニケーションの基本を意識します。Practice はイラストを見ながら語句を入れさせる活動がメインですが、与えられた語句を ( ) に入れ込むだけの作業に終わらせないように



(Lesson 6)

に、必ず英問英答をしてから取り組ませます。例えば、Lesson 6 の practice では “Look at the picture one. What is the problem? What help can she give to her mother? What does she want to know?” から Do you know (how) (to) (use) this computer? を導きましょう。

**Enjoy Communication** は参考例文の語句を入れ替えたものをゴールとしますが、本文から抜粋して与えた型を用いて英文を作らせても良いでしょう。Lesson 10 であれば、 “Here is a photo of... Unfortunately,... To..., we have to...” と与えて、生徒の個人的な意見を引き出します。

この教科書を活用すれば英語力は相当伸びますので、巻末の **Useful Classroom Expressions** もできるだけ授業で使いたいものです。

(いいだ ひろゆき・世田谷学園高等学校教諭・立教大学英語科教育法2 兼任講師)

特集●新学習指導要領と新しい教科書の「ここが知りたい」

## Compass English Communication 1

### 付属資料のご案内

#### ■生徒用■

##### ◆学習ノート

——音声 CD 付きで音読もサポート

単語、文法、重要表現と内容理解の設問を、各パート1ページでコンパクトにまとめました。生徒が自習で無理なくこなせる分量です。

「授業プリント集」を使用したご授業の場合にも、家庭学習で本ノートを併用することにより、教科書本文+αの内容を練習できて、言語材料の理解を一步進んだものにしてくれる1冊です。

今回新たに教科書本文の音声 CD を付属することにより、自宅での音読・リスニング練習の促進を目指しました。

#### ■教師用■

##### ◆授業プリント集

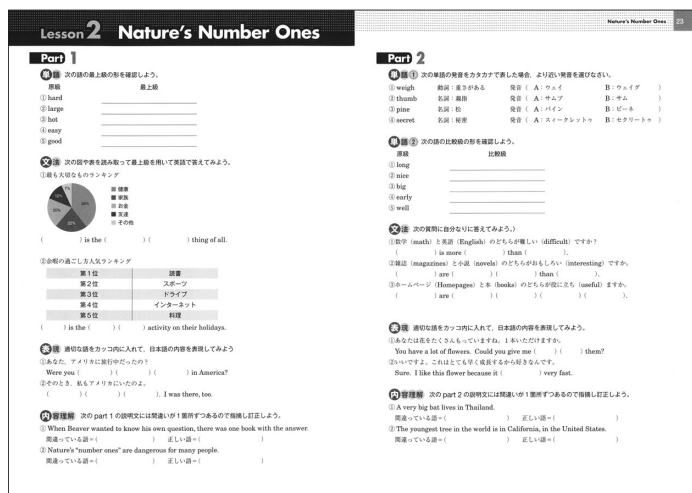
毎回の授業でノート代わりに配布して重要事項を整理し、定期試験対策などに役立てていただくためのプリントです。教科書の設問にぴったり寄り添う内容で、教科書の理解を確実にします。

本文テキスト、プレリーディングクイズ、新出語句、教科書本文対向ページの設問および+αのドリルで構成します。デジタルデータのため、標準の設問とご授業に応じて加減できるオプションの設問を設けてあります。

\* \* \*

##### ◆教授用指導資料

分冊① *Teacher's Manual* : 本文の訳・解説



学習ノート

などの他、授業展開例・発展活動例なども掲載。

特に「指導のポイント」として中学校での言語材料の扱いなどについての情報を掲載しました。復習を手厚くしたい場合、高校新出項目に焦点化したい場合などにお役に立ちます。

分冊② *Teacher's Book* : 練習問題の解答やリスニング・スクリプト、CDトラック番号など必要十分な情報を掲載しました。

CD-ROM : ご好評いただいている「英単語・熟語自動問題作成ソフト」の他、授業プリント集データ、教科書図版の素材データ、スラッシュリーディング用データ、評価問題データ、教科書・副教材のデジタルデータなど充実の内容です。

\*

これらの他、教師用の音声 CD もご用意しています。詳しい内容につきましては、「付属資料ダイジェスト版」に抜粋見本を掲載していますので、そちらもご参照ください。(編集部)

## *Departure English Expression I*

# *Departure* 英語表現Ⅰは こんな教科書です

山岡 憲史



『*Departure* 英語表現Ⅰ』が完成しました。この教科書の特徴と、それに込めた願いをお伝えします。

### 1. 「誰に何を伝えるか」を意識した教科書

「英語表現」の教科書に、先生方はどのようなイメージを抱かれますか？ 現行の「ライティング」に似た教科書？ それとも「OCⅠ」の要素が強い教科書？

私たちは「*Departure*Ⅰ」において、どちらの科目のねらいも取り入れながら、伝える内容や場面を意識し、コミュニケーションの必然性を重視する教科書作りを目指しました。コミュニケーションをする際には、どのような場面で誰に何を伝えるか、ということを切り離すことはできません。この教科書では、使用場面やことばの働きに十分留意して表現させる活動を採用し、コミュニケーションには常に場面が存在し、伝える相手がいることを生徒に意識させる工夫をしています。

### 2. 文法を基本とした教科書

新学習指導要領は、文法を「コミュニケーションを支えるもの」とし、「言語活動と効果的に関連付けて指導する」よう求めています。*Departure*Ⅰでも、「自分の考えや意見をしっかり伝えるために文法は絶対大切」という考え方のもと、文法シラバスに沿って、英語で表現する際に必要な事項を精選し、その形式・意味・機能に習熟させて、基礎力を養えるように配慮しました。また、文法学習を単に演習に終始するのではなく、「読む」「書く」「聞く」「話す」言語活動の中で学

習を深め、活用できるように編集しています。

巻末には、発展した文法事項を含んだ例文を9ページにわたって扱っています。英語で表現する際に使える、より高度な文法事項について学習を深められます。また、準拠の『*グラマーノート*』では、文法事項の一層の演習や表現練習ができるように、数多くの問題を提示しました。

### 3. 4技能をバランスよく有機的に結びつけた教科書——読むこと・聞くことも大切に

「英語表現」は当然、アウトプットの要素が強くなりますが、「アウトプットを豊かにするには、言語材料と内容に関わる多くのインプットが大切」という方針を立て、4技能の全てを1課に盛り込んでいます。

各課の最初は、その課の内容に関するスキーマを活性化するための読解活動です。登場人物が日常的な出来事や感想について語る平易な英文を読んで、生徒の興味を刺激します。この中にもすでに、その課で学習する文法事項が盛り込まれているので、文脈から文法事項の意味を考えさせ、暗示的に導入することをねらっています。

文法の活用練習としては、絵を見て簡単な描写をする活動、設定された場面で文法を使って表現する活動を用意しました。たとえば、「青色ダイオード (blue LED) の用途について、先生に尋ねたい」という情報設定をして、*Would you tell me what blue LEDs are used for?* を導くという、疑問詞を用いた間接疑問文で表現するというような活動です。これは、単なる和文英訳とは異なり、場面を設定することにより、話す必然性や書



<p>&lt;p. 1&gt; ○モデル英文 (スキーマの活性)</p> <p>○Expressions (文法理解)</p> <p>○Give It a Try (文法・表現練習)</p>	<p>&lt;p. 2&gt; ○Get Ready to Express Yourself (文法の活用練習)</p> <p>○Challenge(使用場面を設定した文法活用タスク)</p> <p>○Use It This Way (機能表現練習)</p>
---	---

<p>&lt;p. 3&gt; ○Get More Informed (課のテーマについての読解活動)</p> <p>○Listen Up (課のテーマについてのリスニング活動)</p>	<p>&lt;p. 4&gt; ○Write on Your Own (ステップを踏んで1パラグラフ書く活動)</p> <p>○Speak Up (書いたことに基づいてペア／グループで話す活動)</p>
---	---

▲各課（4ページ）の構成と内容

く意義を理解させ、実際のコミュニケーションで使えるようにすることを目的としています。

3 ページ目には、内容に関する読解活動があります。絵・写真やグラフを見て、それに関連した英文を読みながら、テーマに関わる語彙を学び、その課での文法事項がどのように使われているかを体得できます。後述するように、英文は**生徒の知的関心に訴えるもの**になっています。たとえば、スポーツの課では、野球の監督がなぜユニフォームを着ているのか、バスケットのゴールのネットにはなぜ穴が空いているのかなど、生徒の発見につながる読み物を紹介しています。

リスニング活動でも、**生徒の興味に訴えるスクリプト**を用意しました。科学をテーマにした課では、種の絶滅についての解説文、日本文化の課では能、狂言、歌舞伎の違いについての説明を聞きます。リスニング活動は、内容の要点を取ることを主眼とし、後半の課では聞いて発信するという活動も加えています。このスクリプトにもその課で学ぶ文法事項を盛り込み、学んだことを聞いて理解するという学習を促しています。

#### 4. 無理なく英文が書けるようになる教科書

「1 センテンスレベルでは英文が書けるが、1 パラグラフを書くとなると苦手」という生徒は少なくありません。その原因の1つとして考えられるのは、英語のパラグラフの構成を理解していないということが挙げられます。ですから、「自分の好きな音楽について100語程度の英文で書いてみよう」というような指示をして書かせるだけでは、決していい文章を書けるようにはなりません。

ん。そこで、*Departure I* では、書くプロセスを重視し、それに沿っていけば無理なく1パラグラフが書けるような構成にしました。

まず、Get Ready to Write というコーナーを設け、質問に答えたり、空欄や表の穴埋めをしながら書く内容を固めていきます。その際に必要な語彙は、注記を見たり、巻末の Vocabulary Board を参照したりして知ることができます。次に、モデルパラグラフを読んで、その構成に自分の書きたい情報を当てはめることによって、1段落を完成します。たとえば、自分の関心のある国について1パラグラフを書く課では、まず Get Ready to Write で、その国の位置、首都、機構、特色ある輸出品や産業、なぜその国に興味があるかについて、単文を完成します。次に、同様な情報が書かれてある、日本についてのパラグラフを読み、そこに自分の関心のある国の情報を埋め込んでいくことで1パラグラフが完成するという仕組みです。少子化の問題について原因と問題点を書く課では、高齢化の原因と問題点の書かれた文章がモデルになっています。

ここでもまた、その課で習得すべき文法事項を使えるように工夫を凝らしました。関係代名詞を学ぶ課では、尊敬する人物について関係代名詞を使って説明したり、仮定法過去の課では、「自分がもし外国語を自由に使える力があればどんなことができるか」についてのパラグラフを、仮定法過去を使って書くタスクを用意しています。

生徒はいつか、自分の力だけで英文を書けるようになる必要があります。しかし、自転車に乗れるようにしようとして、いきなり補助輪のない自

転車に乗らせても決してうまくできないように、最初は手厚い支援が必要です。*Departure I* のライティング活動は、**独り立ちをする準備をするための過程を重視した**親切的構成になっています。

## 5. 「書いてから話す」を意識した教科書

英語表現 I では「話す」活動も大切な要素です。しかし、これについても、話す内容や言語材料を与えずにただ「話しなさい」と言っても、定型表現を使うだけの活動になってしまったり、文構造の伴わない単語レベルのコミュニケーションになってしまいます。*Departure I* では、**自分が書いた英文をもとに、それについてペアで伝えたり、グループで発表したりする活動が設けてあります**。「書いてから話す」という手順は、生徒が構造のしっかりした英語を話すための効果的な方法として、極めて有効なものです。日常の用を足すコミュニケーションだけでなく、自分の言いたいことを発信することは、今後ますます重要になってくるでしょう。その意味で、「書いてから話す」という指導のあり方は、これからのスピーキング指導の要諦ではないかと考えます。

## 6. 多彩なテーマを扱った教科書

*Departure I* は、取り上げるテーマとして、生徒の知的な関心を刺激するようなものを多く取り上げ、**生徒の学習意欲を喚起する教科書に作り上げました**。

「学校生活」「友人」「自分の住む街」「映画」「スポーツ」といった生徒の身近なテーマから、「環境」「食生活と健康」「情報社会」「世界旅行」などに視野を広げ、「人口問題」「地理」「進化・宇宙」「異文化理解」「日本史」「日本文化」など、幅広く多彩な内容を扱い、問題意識を深く掘り起こすことに努めました。テーマについては、「読む」「書く」「聞く」「話す」活動を通じて一貫したものにしているだけでなく、**文法の例文や演習問題もすべてその内容をテーマに関連付けています**。たとえば、「尊敬する人物」の課では、ステ

イーブン・ホーキング、モーツァルト、ビートルズ、紫式部、ガンジー、北村康介、安藤忠雄、ヒラリー・クリントン、手塚治虫、エドバルド・ムンク、白洲次郎、シュリーマン、湯川秀樹、バッハ、植村直己など、多彩な人物が登場します。機械的になりがちな文法演習で、少しでも知的な興味を持ってもらえるようにした工夫の跡を感じ取ってもらえることでしょう。

また、日本や世界のさまざまな地域を取り上げているのも大きな特徴です。たとえば、日本については、函館（北海道）、角館（秋田）、花巻（岩手）、山形県、七尾（石川）、向源寺十一面観音（滋賀）、京都市、唐招提寺（奈良）、熊本城、栗林公園（香川）、道後（愛媛）、首里城（沖縄）などを取り上げました。日本や世界の各地に思いを馳せることができるでしょう。

## 7. 懇切丁寧な指導書、副教材を用意した教科書

教師用の指導書は、先生方が実際に教える時にさまざまな側面から役立つように、詳しくかつ多くの発見があるように書きました。文法・語法の徹底的な解説はもちろん、文化情報・背景知識は短い例文についてもすべてつけています。さらに、指導手順や発展活動など、「痒いところに手が届く」ように、また先生方にも発見のある指導書を目指して、執筆者自らが書き下ろしています。

その他、前述のグラマーノート、ALT 用の *Teacher's Book* も用意しました。デジタル上では評価問題集も完備していますので、試験問題作成の際にも大いに実用にご供することでしょう。

*Departure I* は、現場のニーズに応え、生徒たちの学習意欲を刺激し、文法の学習を中心にして 4 技能をまんべんなく伸ばせる教科書として、1 文 1 文、1 行 1 行に時間と心を込めて作り上げました。先生方のご感想とご批判をお待ちしています。

（やまおか けんじ・立命館大学教授）

## *Departure English Expression I*

### 私の授業イメージ ーディクトグロスに焦点を当ててー

新谷 明義



私が勤務する岡山県立倉敷南高等学校は、平成18～20年度の3年間 SELHi の指定を受け、英語 I・II の授業改善に焦点を当て研究開発を実施した。その際、言語活動の中心に据えたのがディクトグロスであった。詳細については、本校ホームページにアップしている『平成20年度 SELHi 研究開発実施報告書』をご覧ください。

ディクトグロスの活動を念頭において、「文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連づけて指導する」ことが可能となっているかという観点から、『Departure 英語表現 I』の第1課 “Our School Year Starts” を例にとりて、1レッスン2時間の授業展開を考えてみたい。

#### ◆1 時限目の流れ

○Introduction：ターゲットとなる文構造・文型、文法項目の提示・確認 (input → intake)

*Kazuaki* : Hi, I am Suzuki Kazuaki. In spring cherry trees bloom beautifully, and our school year starts. There are about 840 students at our school, and everything looks different and new. I feel a little nervous. Today we have a health check in the morning and club meetings after school. I like tennis, so I hope to join the tennis club. In my English class I have to introduce myself. What shall I say?

「動機付け」として、「理解可能なインプット」となる Introduction (モデル英文) で生徒の興味

を刺激するため、4技能の基盤である音読指導をしっかり行いたい。鈴木 (2009) が指摘するように「音読」こそがすべての基本である。Introduction にはそのレッスンで学習する文法事項 (Expressions) が盛り込まれているので、「音読」によって「動機付け」を十分行うことが、そのレッスンの成否の鍵を握っていることは論を俟たないであろう。「動機付け」がしっかりなされていれば、各レッスンの最終目標であるアウトプットの Speak Up にスムーズにつながっていく。

英語の授業の場合、各レッスンの導入がまさしく「学習場面での成功あるいは失敗を決定づける際にきわめて重要な役割を果たしている」と言えよう。音読指導については、安木 (2009) (2011) が参考になる。リスン・アンド・リピート、オーバーラッピング、シャドーイング、クローズ音読等があるが、東谷 (2009) が提唱する暗唱・暗写は自己表現活動に向けた非常に有効な手段である。さらに、音読後の発展活動として、ディクトグロスを活用することにより、トピックやキーワードの説明→スキーマの活性化、メモ、復元、比較の流れの中で、文構造、文法に関して「意味のやりとり」「気づき」が生じる。

○Expressions：Introduction でインテイクした文構造・文型や文法項目の確認 (noticing → comprehension)

○Give It a Try「絵の状況を適切な英語で表現」：文構造・文型や文法項目の定着 (intake)

リード・アンド・ルックアップを行い、リテンションを高めたい。また、ペアによる意味の確認、リピート、サイト・トランスレーション、ロ

ールプレイによるダイアログの練習等を行い、実際のコミュニケーション活動に近づけたい。

#### ○Get Ready to Express Yourself

①「並べ替え」：語句整序 (integration → output)

②「空所補充，日本語→英語」：語句→文 (〃)  
文字通り，自己表現活動の準備であるが，語句整序→文とステップアップした活動を行い，スムーズに自己表現活動へとつなげたい。

○Challenge! 「場面を設定した自己表現」 (integration → output) ペアで伝え合う→グループ内で発表→クラスで発表につなげる活動をした。この活動をさらに広げて，タスクを課した言語活動を導入して，より効果的に，ターゲットとなる文構造・文型，文法項目の定着を図ることも可能である。

### ◆2 時限目の流れ

○Get More Informed 「写真を見て英文完成」 (output) ここまでで文構造や文法項目の確認・定着，自己表現の活動を行っているが，Get More Informed はパラグラフ・ライティングにつなげる活動 (input → intake) である。ここで，最終のパラグラフ・ライティングの活動につなげるために，ディクトグロス活動を行うと，文構造や文法項目の再確認ができ，定着をさらに深いものにすることができる。

○Listen Up 「音声聞いて表を完成」 (input → intake) 「聞く」力の育成を目標としたものであるが，少し負荷を高めて，ディクトグロス活動を行い，聞いたものを復元する活動にすることもできる。

#### ○Write on Your Own

① Get Ready to Write 「英語で表現する準備」：センテンス・ライティング (output)

② Write a Paragraph 「50語（最終課では100語）程度の英語で表現」：パラグラフ・ライティング (integration → output)

センテンス・ライティング→パラグラフ・ライ

ティングと，指示に従って1パラグラフが書ける構成になっているが，②において，生徒が書いたものをディクトグロスの素材にすることも可能である。その際には，聞いたものをそのまま復元させるのではなく，サマリーを書かせることも考えられる。また，数レッスン毎に，生徒のスク립トを活用して，例えば各グループに違ったテーマのエッセイを書かせ，クラス全体で発表し合い，ディクトグロスにつなげることも可能である。

○Speak Up 「ペアで対話」 (integration → output) 最終的な口頭による発表である。ペアで伝え合う→グループ内で発表→クラスで発表と対象を広げ，「書いてから話す」という指導で，最終的には「文法がコミュニケーションを支えている」ことを実感させる言語活動にしたい。

＊

『Departure 英語表現Ⅰ』は，各レッスンが「読む」力・「聞く」力・「書く」力を「話す」力につなげる構成になっている。村野井（2009）が指摘しているように，「インプット理解を助けるわかりやすい提示，内容の深い理解，言語知識を定着させるための練習」がそれぞれ効果的に行われ，アウトプット能力を育成できるであろう。また，センテンス→パラグラフ，ライティング→スピーキングという構成になっており，インプット・インテイク・アウトプットの活動を通して，言語の形式面の獲得ができるだけでなく，コミュニケーション能力を育成できるイメージがわいてきた。「英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。」という英語表現Ⅰの目標に沿って，「文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，言語活動と効果的に関連づけて指導する」ことが可能であると確信できた。

（にいや あきのり・岡山県立倉敷南高等学校指導教諭）



特集●新学習指導要領と新しい教科書の「ここが知りたい」

*Departure English Expression I*

付属資料のご案内

Lesson 16 Exploring Life and the Universe

名詞節とは、節（まとまった意味を持つ単語のかたまりのうち、主語・動詞を含むもの）の中で、主語や目的語、補語などのような名詞の役割をするものです。

1 「～ということ」 that～が動詞の目的語や補語

(a) The experiment proved that the scientist's was true.

（その実験は、その科学者の理論が正しいことを証明しました。）

接続詞thatで始まる節は、動詞の目的語になり、「～ということ」という意味を表します。

口語では、動詞がsay, tell, thinkなどの場合、このthatはよく省略されます。

(b) The trouble is that there is no cure for AIDS now.

（やっかいなことは、今エイズに治療法がないということです。）

接続詞thatで始まる節は、補語にもなり、(a)と同様、「～ということ」という意味を表します。

このthatも、口語ではよく省略されます。

2 「～という（考え）」 the idea that～

I like the idea that science begins when you ask why.

グラマーノート p. 1 (部分)

Standard

A 日本文の意味を表すように、( ) 内の語句を並べ替えて英文を完成させましょう。

① (a) その科学者は、自分の夢が実現することを願っている。

The scientist ( will / his dream / that / true / hopes / come ).

② (b) 重要なのは、私たちがその実験を行うべきだということだ。

The point ( we / the experiment / that / make / is / should ).

③ 今日彼は、父親が昨日手術を受けたという事実を知った。

Today he learned ( his father / that / an operation / had / the fact ) yesterday.

④ 彼女の研究が、世界の役に立つのかどうか、私にはわからない。

I don't know ( useful / her research / be / whether / to / will ) the world.

⑤ 問題は、その機械がいくらするかということだ。

The question ( much / the machines / is / how / are ).

グラマーノート p. 2 (部分)

■生徒用■

◆グラマーノート——新登場！高校英文法のエッセンスが身につく新しいワークブック

1 レッスン 4 ページの構成です。p. 1 に教科書の文法項目を丁寧に解説、その対向ページ (p. 2: Standard) には左のページの解説を読めば解ける基礎的な練習問題を用意。p. 3 (Advanced) には図版を見ながら会話を完成させるなど、様々な形式の応用問題を用意して、その課の文法項目が定着するように工夫しました。p. 4 (Expansion) では発展的な文法練習活動を用意し、生徒が文法項目をさらに使いこなせるようにし、かつ教科書巻末の表現力を高めるための表現集から出題し、生徒の表現の幅を広げられる形になっています。

また、別冊の解答・解説集はノート本体で掲載できなかったより深い理解のための例文や解説を詳細に収録し、授業で習ったことを生徒が自習で身につけられる仕組みになっています。別解や間違いやすいところの解説も収録しているので、真の文法力が身につくように仕上げられています。

■教師用■

◆教授用指導資料

分冊① *Teacher's Manual* : 本文の訳・解説などの他、徹底した文法・語法解説、文化情報・背景知識も豊富に用意。授業展開例・発展活動例なども掲載。英語での展開例も載せているので、「英語で授業」にもたやすく対応できる仕組みです。

分冊② *Teacher's Book* : 練習問題の解答やリスニング・スクリプトなどに加え、「英語で授業」を意識した、オーラル・イントロダクション例や発問例・授業展開例なども盛り込みました。チーム・ティーチングに最適です。

CD-ROM : 評価問題データ、教科書・副教材のデジタルデータ、スクリプトや文法補充問題などを収録する予定です。

\*

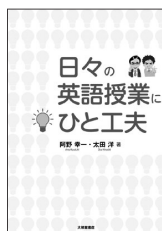
これらの他、生徒用・教師用の音声 CD もご用意しています。詳しい内容につきましては、「付属資料ダイジェスト版」に抜粋見本を掲載していますので、そちらもご参照ください。

(編集部)

## 日々の英語授業にひと工夫

阿野幸一／太田 洋 著

A5判 282pp.  
本体1,800円＋税



三浦 孝

### 先輩英語教師の知恵袋

本書は、雑誌『英語教育』の連載「アノ先生とヒロ先生の日々の授業にひと工夫」の集成・加筆版である。266ページ、37のテーマで書かれた授業アドバイスには、熟達先輩教師の知恵袋として、英語科教育法テキストにはあまり書かれていない現場の知恵がぎっしり詰まっている。

全編に貫かれる姿勢は、一方的知識注入型授業でなく、学習者が答を導き出す力の育成としての授業づくりである。それは、①生徒1人1人が答を考え②小グループで答を出し合い検討③検討した答をクラス全体に発表、というプロセスである。この過程で、使用言語を適切に切り替えることにより、授業に英語使用と内容的深まりの両方を生む。教師が活動②をモニターする中で、生徒のアイデアや困難点を発見してそれを全体に還流して学びをレベルアップする。

本書には、両著者の現場の知恵が宝石のように散りばめられているので、その中のいくつかをほぼ原文のまま（多少の字句省略あり）紹介したい。

「4章. 授業の最初の5分」：卒業生から「先生は授業中、よく飲みに行った話をしていましたよね」と言われました。こうした雑談には、日本語・英語にかかわらず生徒は耳を傾けてくれます。これで教室の中は、英語を使ってコミュニケーションを取る準備が完了です。

「6章. イベントの実施」：準備の過程で英語力をつけていくなようなイベントを企画することです。…学年全体のスピーチコンテストは保護者にも案内を出しています。やはりそのような協力体制があるからこそ、効果的に、かつ継続的に実施できるのですね。

「コラム⑦」：Michelle先生は、Teaching vocabulary というトピックで授業をする際に、「語彙指導で大切なことは何だと思いますか」と私たち（受講生）から考えを引き出します。意見を「いいわね」「なるほど」とコメントしながら黒板にまとめていきます。そしてその後、板書した内容に触れながら自分の意見を述べていきます。

「10章. リーディング」：事前に教科書のコピーを渡し知らない単語を黒で塗りつぶせば、黒塗りのところにはどんな意味の単語が来るかを考え…すると、推理力を働かせながら深く読むことになる。

「14章. 音読指導」：各学期の終わりに、生徒1人1人と「1分間音読テスト」をしていました。習った教科書の範囲の中から、ある1ページを音読してもらいます。1人1分ですから、1時間で終了します。

「15章. 文法指導にひと工夫」：Grammar Hunt は2度目3度目に会わせたい文法事項を教科書の習った範囲から探させる活動です。例えば、2年生の3学期になった時点で、「今までに習った教科書の本文から There is ... の文を見つけてアンダーラインを引きましょう」と指示をします。

「19章. ペア・ワーク、グループ・ワーク」：ただ答えが与えられるのを待つスタイルの授業と比べて、生徒の参加意識も変わってきますよね。

「21章. 英語で進める授業」：まずは日本語で意見を存分に述べて、グループからクラスにレポートする時に英語で発表をする、ということも必要。

「22章. 日本語訳の使い方」：「欲しい人は（日本語訳プリントを）自由に持って行っていいですよ」と伝えました。…年度の終わりには数枚用意するだけで十分でした。

「32章. 多読指導」：中学2年の3学期になったら、1時間授業を使い、「他社の教科書を読もう」という活動をもう一度行います。

最後に、本書は英語教師が陥りがちな指導上の誤りに言及する際、高所から人を批判する代わりに、著者自身の過去の過ちを告白し反省するスタイルを取っている。そんなやさしさもあってか、この本を読んでいるとなんだかほのぼのとするのである。

（みうら たかし・静岡大学教育学部教授）

# 英語教師のための 第二言語習得論入門

白井恭弘 著

四六判 168pp.  
本体1,200円＋税

山本敦子



科学的アプローチに基づいた英語教育の処方箋——教師としてこれだけは知っておきたい

「学校行事や生徒指導が忙しくて教材研究どころではない」と慣れ親しんだ文法訳読式の授業をなかなか変えられないでいる英語教師が「忙しくても肩肘張らずに」すぐに読めるように、とエッセイ風書かれているこの本はとにかく読みやすい。著者は、アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学言語学科長として第二言語習得研究の第一線で活躍している白井恭弘氏である。アメリカの大学で言語学を研究しているからといって、教育現場から離れた抽象理論に埋没しておられるわけではなく、7年間の公立高校での指導経験が「僕の原点」と、教師が何に悩みどういう現実的な壁があるのかもしっかりと踏まえて書かれているので、我々教師の心の琴線にさっと響いてくるのであろう。読み進めるにつれて、日本人の英語力向上への著者の熱い思いと、「遠いのに近い」著者の存在感が、講演記録をもとに書き下ろしたという語りかけるような文体とあいまってじわじわと伝わってくる。

第1章「第二言語習得論のエッセンス」は「これまで第二言語習得研究で明らかにされてきたことについて、英語を教える人に最低限押さえておいてほしい内容」がまとめてあり、一般読者向けに書かれた前著『外国語学習の科学』（岩波新書）の内容にさらに新しい研究成果が盛り込まれている。第2章「SLAからみた日本の英語教育」は「現在の日本の英語教育のあり方、またこれからの方向性」についての筆者の考えを、さらに第3章～第6章では、小中高の学校教育、そして大学生、社会人の英語教育など個々の現場に即して進むべき方向性を示してくれる。

例えば、小学校外国語活動で身の回りの物の名詞を覚えさせる活動や片言のアウトプット活動に満足してしまいがちな指導のあり方、綴りの正確さや「簡単には身につかない」3単元の-sなどの形式について目くじらを立ててしまう中学校英語教師のあり方に大きく警鐘を鳴らしている。特に第5章「高校英語教育のこれから」においては、新学習指導要領の「英語の授業は英語で」の基本的なとらえ方を「英語が教師も生徒も両方の中で activate される状況」を作ること、使える英語を身につけることをめざすこととしている。しかし Speaking 重視の授業は入試の制約、クラスサイズ、教師の指導力の3点において困難が伴うことは我々の認識に違わず著者によっても指摘されている。そこで、著者が現場教師時代に高校の英語授業で行った「インプットモデルに基づいた実践例」が当時の実践報告とともに紹介されている。1年間で英語の偏差値が10上がったというその指導法は、当時週1時間あった文法の授業をすべてサイドリーダーを読む時間に充てて年間10冊の本を読ませ、文法学習は家庭学習に回したというものである。これによって input 量は7,540語から約20,660語へと決定的な差を生み、それが目を見張る結果を導いたものであろう。

25年以上前に書かれたこの実践報告の時代と違って、現在では国語教育における読書活動そのものの計り知れない効果が国によって認められ、「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年）」のもと朝読書などによる自主的読書活動や読み聞かせの活動が小中学校教育に広く普及してきている。本書で触れられている「自分の能力や興味に応じて自由に本を選んで読む自主的読書教育」の環境を、言語を日本語から英語に変えて与えるといった実践も難しいことでないだろう。さらに教師が「魅力ある教材を選び」「レベル、ヒントの与え方などを工夫して生徒が確実に理解している状況を作りながら」本書で紹介されている L-R Reading の方法による Communicative Reading により実際のコミュニケーション能力に繋がる Comprehensible Input を心がけて導入していけば、文法中心の指導が到底及ぶことのできない成果が期待できるものと思われる。

（やまもと あつこ・愛知県小牧市英語教育推進委員）

## 大修館書店の本

### ◆効果的な指導法を科学的に探るために 英語教師のための第二言語習得論入門

白井恭弘＝著

(四六判・168頁・定価1260円)

### ◆人と文字が織りなす歴史ドラマ 世界の文字を楽しむ小事典

町田和彦＝編

(四六判・274頁・定価2730円)

### ◆英訳の考え方と実際のな方法を解説 日英 実務翻訳の方法

田原利継＝著

(A5判・128頁・定価1365円)

### ◆4人の女性への手紙から読み解く英雄の素顔 ナポレオン愛の書簡集

草場安子＝著

(四六判・262頁・定価1995円)

### ◆異質な他者を尊重する社会の実現を目指して 生きる力をつちかう言葉

一言語のマイノリティーが〈声を持つ〉ために

田中望・春原憲一郎・山田泉＝編著

(四六判・256頁・定価1890円)



### お知らせ



小社英語教科書についてのご質問、感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「G.C.D.教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿(郵送のみ)をお待ちしております。(採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。)

なお、小社ホームページ「燕館」には小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは、英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

<http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

## ◆営業便り◆

▶新学期を迎え、先生方におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。今年も弊社発行の教科書をご採択いただき、また学習辞典をご推薦いただいた先生方に、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

▶新年度が始まりますと、早くも平成25年度用の教科書見本が出来上がります。今回の新学習指導要領に基づいた各社の新しい教科書は、語彙数が増え、ページ数も大幅に増えていると伝え聞きます。また「文法を言語活動と効果的に関連づけて指導する」ことや、「英語で授業を行う」ことを配慮する教科書も多く出てくることも予想されます。弊社発行の新しい教科書も、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、上記の配慮とともに、4技能を有機的に統合した効果的な言語活動の実践を目指したものになっております。

▶弊社営業担当者が近いうちにそれらを携えてご案内にお伺いいたします。どうぞご検討、ご採択のほどお願い申し上げます。

## ◆編集後記◆

▶新学習指導要領の実施が近くなってまいりました。今回は「英語の授業は基本的に全て英語で行う」ということが明記され、話題になりました。本当に全て英語でやらなければならないのか、例えば文法の説明などはむしろ日本語でないとわからないのではないかなどといろいろな異論も出てきて、物議を醸しました。

▶しかし実際のところ、この文言は、決して英語教師が英語で一方的に生徒に話すことを意味するのではなく、「生徒に英語で発信する機会を増やす」ことを意図しているとのことです。確かに教室で日本人どうしが英語で話すことに違和感を覚えるのは当然のことなので、その違和感を少しでも取り除くための雰囲気作りとして、まずは教師が英語で積極的に話すというのは一理あると思います。

▶とはいえ、生徒の性格も千差万別でしょうし、塾の講師くらいの経験しかない私が想像してみても、生徒が英語で話したいと思う雰囲気を教室で作りながら、授業を効果的にコントロールすることは「言うは易く行うは難し」だと思います。現場の先生方のご尽力には、本当に頭が下がる思いです。(内)

Genius・Compass・Departure

## 英語通信

第50号

2012年4月1日発行

(年2回発行)

編集人：◎「G.C.D.英語通信」編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話(03)3868-2293(編集部)／(03)3868-2651(販売部)

【出版情報URL】<http://www.taishukan.co.jp> 【振替】00190-7-40504

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

〔本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。〕